

現代の資本主義社会における株式投資の必要性

佐藤 資

大学3年生の時にゼミナールのメンバーと参加した日経 STOCK リーグで日本経済の仕組みや投資に関わる意識調査について学習した。本格的に就職活動が始まると、資本主義社会と企業の在り方について興味を持った。本論文では、どのようにすれば投資を通じて公益的な社会を実現できるのか、という問題意識のもと、資本主義社会における株式投資の必要性とその学びの重要性について明らかにすることを目的とする。

第1章では、文献調査を通じて、2000年以降の資本主義社会の問題点として格差社会の拡大と会計情報の有用性の喪失について明らかにした。第2章では、ROESG、SDGs、統合報告書のランキングに基づき、安全性と中長期的に重点を置いた3つのポートフォリオを作成した。第3章では、3つのポートフォリオの成果について比較検証した。その結果、ROESGが一番安定していることが確認された。また、SDGs、統合報告書のポートフォリオも評価額は増加したものの安定性には少し欠けることが確認された。第4章では、第3章のポートフォリオを運用するに至るまでの学校教育の重要性について、金融リテラシーがもたらす効果とエンカルという2つの観点から考察した。第5章では、公益概念とSDGsの関連性についての整理を行った。本学の公益に関する教育は、SDGsと親和性が高いことが分かった。SDGs教育の実践例として、三重大学と慶応義塾大学の事例を整理し、これからのSDGs教育の重要性について論じた。

本論文では、資本主義社会の問題点とROESGの安定性、学校教育の重要性が明らかになった。残された課題は2つある。1つ目は、長期的なポートフォリオの運用データを示すことができなかったことである。2つ目は、SDGs教育の取り組みによる効果について実際の数値に基づいて説明することができなかったことである。これらの課題については今後も研究し続けていきたい。